

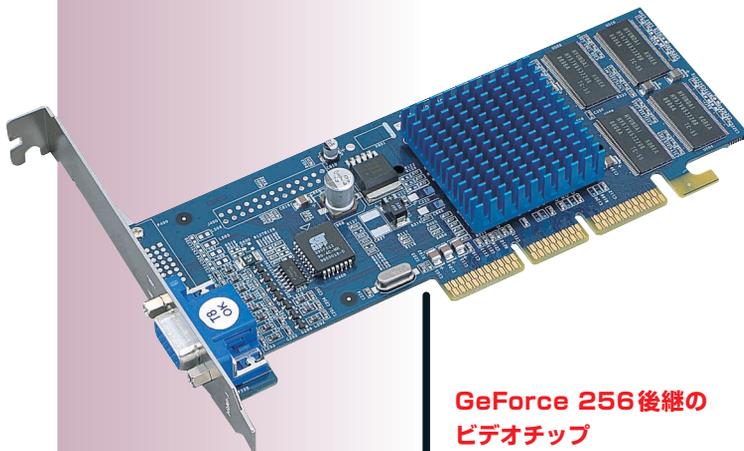


ギルモ

HERCULES 3D PROPHET II MX

希望小売価格：1万6800円

GeForce2 MX搭載 低価格3Dビデオカード



POINT

GeForce2 MXは簡単にいってしまえばGeForce2 GTSの廉価版ということになる。その型番が「MX」であることや0.18μmプロセスを使っていることから「ノートPC向け?」という印象を与えるが、原稿執筆時点ではまだ予定はない。今回の製品のようにコストパフォーマンス重視のビデオカード製品に好んで搭載される傾向にあるようだ。

価格

希望小売価格：1万6800円

問い合わせ先

ギルモ
☎03-3526-6661
http://www.hercules.com/

ビデオチップ

nVIDIA GeForce2 MX

対応バス

AGP 2X/4X

メモリ

32MB SDRAM

最大解像度

2048×1536ドット・32ビットカラー

対応OS

Windows 98

コストパフォーマンス



機能性/操作感



総合評価

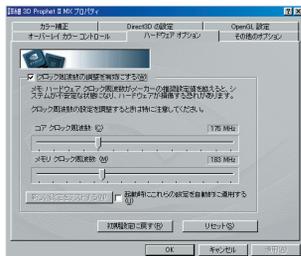


GeForce 256後継のビデオチップ

8/1号の/Vmag. exPRESSでnVIDIAのGeForce2 MX(以下GF2MX)を搭載したLeadtek Winfast GeForce2 MXを速報したが、ギルモからも「HERCULES 3D PROPHET II MX」(以下PROPHET 2MX)がリリースされた。

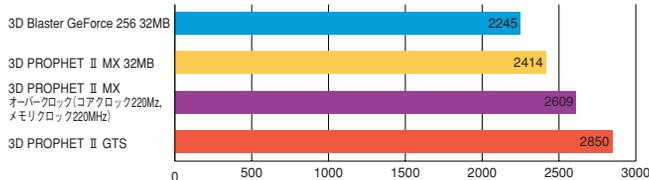
性能的には初代GeForce 256(以下GF256)の33%増しの性能で、チップ単価は約3分の1に抑えられているとのことから、コストパフォーマンス的には非常に魅力的なビデオチップである。GeForceファミリー間のスペック比較は8/1号のp.78などを参照してほしいが、GF2MXの3Dコア部はGeForce2 GTS(以下GF2GTS)よりもGF256に近いので、感覚的には「0.18μmプロセスで製造して動作クロックを120MHzから175MHzに上げたGF256」といえば分かりやすい。

PROPHET2MXの作りは非常



画面はデフォルトセッティングの状態。スライダはコア、メモリそれぞれ220MHz、230MHzまで動かすことができる。オーバークロックさせるなら、安全のためにもヒートシンクにファンの搭載をお勧めする

3DMark2000 ver.1.1のテスト結果



テスト環境

CPU：AMD K6-III/400MHz
マザーボード：ASUSTeK P5A
メモリ：PC/100 CL2 SDRAM 128MB
GeForce 256製品：Creative 3D Blaster GeForce 256
GeForce 2 GTS製品：HERCULES 3D PROPHET II GTS
使用ドライバ：それぞれの製品のビデオカードベンダー製最新版
ベンチマーク解像度：1024×768ドット・32ビットカラー/32ビットTexture

にシンプルだ。基板上で目につくものといえばヒートシンクを取り付けたGF2MXチップとSDRAM(DDRではなくSDR)チップくらいのもの。パッケージに載っている製品写真にはオーバーレイ用のフィーチャーコネクタが実装されているが、今回入手した製品はこれが省略されていた。ファンが取り付けられていないのは、0.18μmプロセスを使っているためだろうと思いつつも、試しに6時間ほど連続駆動させてみたところ、ヒートシンクは触れないほどに発熱していた。集積密度が高くなる省スペースPCにPROPHET2MXを組み込む場合には、ケース内の排熱に気を配る必要がある。

ところで、GF2MXといえば、1個のGF2MXでマルチディスプレイ環境を実現するTopView機能が実装されているのだが、パネル部にはVGAコネクタが1個あるだけで、この製品では対応していない(8月中旬には対応製品が発売される予定だ。予価2万1800円)。

GF2MXにはもう一つDigital Vibrance Control (DVC)機能というデジタル信号でのカラー補正機能がある。PROPHET2MX付属ドライバのカラー補正プロパティがはたしてDVCを活用したもののかは確認できなかった。ただ、カスタマイズしたカラーセットはプロファイルとして登録できる仕組みになっており、タスクバーから随時切り替えが可能になっていた。

使用するソフトごとに適したカラーセットに切り替えるといった使い方ができる。

GeForce 256 ≤ GeForce2 MX ≤ GeForce2 GTS

GF256、GF2GTS搭載製品とのパフォーマンス比較を行ってみよう。PROPHET2MX付属のドライバのプロパティには簡単なチューニング機能が搭載されており、動作保証外ではあるが、GF2MXのコアクロックおよびメモリクロックをオーバークロックさせることが可能だ。今回試用した製品ではコア210MHz、メモリ220MHzのそれぞれ20%オーバークロック時までベンチマークが測定できたので、参考までに結果を示しておく。

結果を見た限りではGF2GTSの15%減、GF256の10%増の性能といったところだ。現在、GF2GTS+DDR SDRAMカードは実売3~4万円、GF256+DDR SDRAMカードが2万円前後で販売されていることを考えると、1万6800円でこれだけの性能が手に入るといっては、強烈なコストパフォーマンスとしかいいようがない。

nVIDIA RIVA TNT系やATI 3D RAGE系のユーザーで、「最近の3Dゲームの動作にやや不満はあるが、設備投資にはそれほど予算がない」といったユーザーには、最有力候補となるはずだ。

(トライセット 西川善司)